

2 岡山県の林業

1 岡山県の林業

(1) 岡山県の森林

岡山県全体の面積^{めん せき}の約70パーセントが森林です。また、その3分の1は土砂くずれやこう水などの自然災害を防ぐために、大切な^{ほ あんりん}はたらきをする森林を守るために整備されている保安林です。

① 天然林と人工林

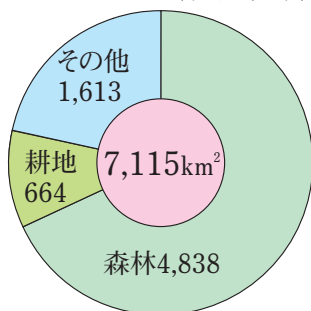
岡山県の森林には、どのような木が多いのか岡山県農林水産総合センター森林研究所の方に教えていただきました。

森林は、自然のままの天然林と、人が植林した人工林とに分けられます。

天然林では、くぬぎやならなどの木があり、秋には美しい紅葉が見られます。これらは葉の落ちる木で、^{らく よう じゆ}落葉樹です。それにくらべて、人工林は^{しん よう じゆ}針葉樹が多くなっています。人工林の針葉樹は、杉やひのきが多く、ひのきが68パーセント、杉が21パーセント、松が9パーセントぐらいです。

人工林の多くは、植林してから40年以上たっていて、家の柱や板としてりっぱに役立つくらいに育っています。

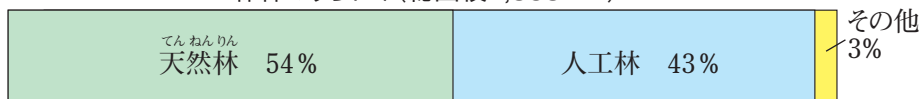
岡山県の土地利用のようす
(平成27年現在)



<岡山県中山間地域振興課資料>



森林のうちわけ(総面積4,838km²)



(その他は竹林・無立木等)

<岡山県林政課「岡山県の森林資源(H29.3)」>

② りんさんぶつ 林産物の生産

岡山県で生産している林産物は、杉やひのきを加工した木材の生産が多くなっています。特にひのき丸太の生産量は日本一です。しいたけやまつたけの生産もさかんです。

しいたけ

しいたけを育てるには、まず、くぬぎやならの木を1メートルほどの長さに切って、しいたけ菌きんを植えて、「ほだ木き」をつくります。



しいたけのほだ木

ほだ木を、林の中のあまり日のあたらない、風通しのよい場所で育てます。発生ほしの時期を変えるため、ハウスの中で栽培することもあります。

岡山県の平成27年のしいたけの生産量は、乾しいたけが全国18位、生しいたけが26位でした。

まつたけ

まつたけは、赤松林あかまつばやしに生えるきのこです。最近、生産量がたいへん少なくなったので、とてもねだんが高くなってしまいました。

岡山県では、まつたけの生産量をふやすため、落ち葉や下草を取り除のぞいたり、じゃまになる木を切ったりして、まつたけによい環境をつくる努力をしています。岡山県の平成27年のまつたけの生産量は、全国4位でした。



赤松林とまつたけ



伝統的な竹製品づくり



竹製品

竹

身近にある竹も、森林資源しげんのひとつです。竹は家の建築に使われたり、農業や水産業でもよく使われます。また、わりばしとしても利用されています。伝統的工芸品の竹細工をつくっている、真庭市の月田つきだをたずねてみました。

そこでは、地域の人たちが、ま竹だけを使って竹かごなどいろいろな竹製品をつくっていました。

みつまた

ふだんの生活で使っている紙幣しへいの原料がみつまたです。みつまたの木を切り、むき取った皮をかんそうさせます。それ



みつまたの皮むき作業

を、お札をつくる独立行政法人国立印刷局どくりつぎょうせいほうじん こくりついん さつぎょくにおさめています。

みつまたは、真庭市や美作市などの水はけのよい山の斜面などで栽培されています。みつまた栽培は、じょうぶな苗木なえぎをつくること、草かりをしてやるのが大切です。3年ぐらいで収かします。

2 林業の仕事をしている人々の暮らし

(1) 林業のさかんな地域^{ちいき}

真庭市^{まにわ}は、岡山県の北部の中国山地にあり、鳥取県^{とっとり}に接しています。森林は、真庭市の面積の5分の4をしめています。杉やひのきが育つのに適した土地が多く、県内でも林業のさかんな所です。



よく手入れされた森林(真庭市)

切った木は、市内にある製材所で加工します。製品は、県内だけでなく、近畿地方などにも出荷しており、地域の産業として大きく成長しています。

(2) 林業をおもな仕事とする家庭^{かてい}

山の仕事の1年間

真庭市で林業を主な仕事にしている福田^{ふくだ}さんは、お父さんと二人で山の仕事をしています。毎年3月には、植林をします。そのための苗木^{なえぎ}は、森林組合を通して買っています。木は、植えてから、50年から60年しないと、木材として使用できるまで育たないので、長い間、根気よく世話をしています。



植えた木が、草や雑木^{ぞうき}に負けないようになるまでは、毎年下草をかったり、まきついたつるを切ったりしています。この下草がりは、夏の暑い時期の仕事なので大変な作業です。

1年間の作業ごよみ

1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
枝うち		植林	除 ^{じょ} ばつ 間 ^{かん} ばつ	下 ^{しも} かり・つる切り				除 ^{じょ} ばつ 間 ^{かん} ばつ		枝うち	
											
植林		下 ^{しも} かり	間 ^{かん} ばつ	枝うち		枝うち		枝うち		枝うち	

少し大きくなってくると、よい木だけを大きく育てていくために^{じょ}に除^{じょ}ばつといって、曲がった木や虫の入った木などを切りたおします。もっと大きくなると、木の枝と枝とが重なりあうようになります。すると、林の中に入る日光が少なくなります。そこで、^{かん}間^{かん}ばつといって、こみあった木を切って木と木の間をひろげ、日光があたりやすくしています。

また、ふしのない、下から上まで同じ太さの木にするためにも枝うちは大切な作業です。

大きく育った木は、切りたおして、真庭市にある木材市場^{いちば}へ出荷します。たくさん切るときは、森林組合にたのむこともあります。



真庭市の木材市場

3 これからの林業

(1) 林業の機械化

山の仕事は、斜面が急なところが多く、作業がむずかしいこともあり、最近では山で働く人がへってきました。また、手入れがゆきとどかず荒れたままになっている森林が増えているのも問題です。

そこで、林道をつけたり、いろいろな作業を機械化したりして、林業の生産性向上に取り組んでいます。



林業機械による造材・運搬作業

(2) コンテナ苗による作業の省力化

容器の中で育てる「コンテナ苗」は、根に土が付いた状態で植えるので、植えた後の生育がよくなります。また、植える時にも専用の器具を使うことで簡単に植えることができ、作業の省力化につながります。



コンテナ苗



植栽の様子

(3) 岡山県農林水産総合センター森林研究所

勝央町と真庭市にある森林研究所は、よい森林をつくり、林業をさかんにするための研究や木材の新しい利用や加工技術の研究をしています。

勝央町にある研究所では、性質がよく病気や害虫に負けない苗木の種子や、花粉の少ないスギやヒノキの苗木の種子をつくった

り、自然と調和したよりよい森林をつくったりするための研究をしています。

また、森林の中にはえているきのこなどを人工的に栽培する方法や、育てた木を効率よく運び出す方法などの研究をしています。

真庭市にある研究所では、木材の強さや腐^{くさ}りにくさ、人工で乾燥する方法などを研究しています。

最近では、今まで利用できなかった木材をチップやペレットにしてストーブなどの燃料にしたり、木の粉をウッドプラスチックにして自動車の部品に利用するなど、新たな分野でも使われ始めています。

樹木は大気中の二酸化炭素（CO₂）を吸って、光合成をしています。木材を大切に使うことは「地球温暖化防止」に役立ちます。



ウッドプラスチック(木の粉)を使ったうちわ

(4) 県民参加による森づくり

岡山県では、森林の働きや大切さ、木材の利用について県民にもっと知ってもらい、県民みんなで森林を守り育てていこうという取組を進めています。



苗木の植栽



枝うち



森林環境学習

この取組では、小学生や地域の住民など多くのボランティアが参加して、森づくり活動を体験し、人々の生活や森林との関係について学び、森林・林業への理解を深めています。